

平成29年度 市民協働型まちづくり事業補助金事業選考会

日 時：平成29年5月25日（木）13：10～15：30

場 所：御殿場市役所 東館 第201～203会議室

参加委員：小高由佳・高村典子・山本裕一・川口勇雄・児島洋美・小林類志・小宮山なほみ・方壁陽子・渡邊恵子・天野哲也・大割克美・湯山有朋・杉山宏治・勝又欣也・勝又文弘（15名）

事務局：田代課長・勝又統括・原田・寺島（市民協働課）

〈市民提案部門〉

①親と子の発達支援プロジェクト

【審査用紙コメント】

- ・市ではすべての親子を見ることができないため、とても良いことであると思いました。デリケートな情報が集まることが予想されるので、しっかり情報管理をすることも必要と考えます。
- ・大事な点は“発達支援”の必要性を広く伝えて行くこと。子供やその親が社会生活に取り残されないこと。御殿場市にはそれが可能である。そのようなことが理解されている。
→住みたい街・住むべき街の形成
- ・発達障害と診断される人数は？
- ・発達支援の隙間をついた良いプロジェクト。今後の活動必要有。レゴのプログラムは◎
- ・ロボットプログラミングについてもう少し説明が欲しかった。
- ・教育委員会との連携はあるの？
- ・素晴らしい事業内容だと思います。頑張ってください。
- ・発達障害を特別扱いしない環境作りにも取り組んでもらいたい。
- ・事業への取組に専門性の高い知識を有していると感じた。
- ・親⇔子に重点 相談1000件 ロボット10万(4台)⇒3回12名
↑教師・授業必要か？
- ・「手をつなぐ育成会」と接点はないのか。
- ・たくさんの悩める親に風穴をあける活動、素晴らしいと思います。長く続けて欲しいです。
- ・とても意義のある事業であり、支援を必要とする人の力になってください。

委員：親のコミュニケーションを作る場はすごい大切だと思った。今回の事業30万円の支出内容の中で、プログラミング用ロボットが13万円と半分近く占めているのに、対象が12名しか受け入れられない。他に使い道を変えた方が効果が大きいのではないかな。

委員：この13万640円の中には、コピー代、講演のお茶代などすべてのものが含まれていて、プログラミング用ロボット代だけではない。初めてだから、

1対1でやったり、最初だからお金がかかるのかなと思う。

委員：家庭センターの問い合わせが1000件あるのに対して講演会には20人しか呼ばないが、もっと案内や参加人数を増やしたらいいのでは。

委員：6人というのは去年からやっているペアレントトレーニング(親子参加で平日：丸一日、年10回の専門講習。費用もかかる。毎回宿題も出るほどのガチンコ講習)のこと。これとは別に発達障害かクレーゾーンの人も含めて気軽に話せるお茶会やフェイスブックのグループでなんでも話せるような交流活動を以前からやっている。

委員：チラシで200人募集のところ実際来るのが20人程度ではないかという赤字にならない参加収入だと読みとる。だとしても参加人数が少ない気がする。

委員：御殿場市内で発達障害と診断された人数は？

委員：たくさん発達障害でご苦労されている家庭がある。発達障害には個人差がある。未就学児は自分のことが自分で出来ることを目標として活動する。小学生以上になるとより個人差が出る中で、このプログラミングがどう発達障害の子たちに効果があるのかわかるような説明の仕方ができると、もっとみなさんがこの試みを応援しようという気になったのではないかと、とても良い団体だと思う。

委員：出来ることを伸ばし判断力を養う機会を与えてあげることと、市民協働することで今まで誰にも話せなかった親子さんがこういうことがあると知る機会になる。

委員：やはりプログラミングは難しいと思う。どの程度のプログラミングをやるかにもよる。10万円で効果が薄いともったいない。違う使い方で効果を出した方がいいのでは。良い事だとは思いますが。

委員：1人1人全く違うので難しい。悩んでいる方がいる。ぜひやってもらえればと思う。

委員：対象者がひとまとめにできないということであるから、出来ることをやってもらって様子をみるということではないか。

委員：その通りだと思う。1回目、2回目、3回目とやったことをしっかり分析し、次回どのようにやったらうまくいくかを検証してよりよいものを常に提供していただくということで、満額決定でよろしいか。

一同：了承。

(選考時間 約23分間)

☞ 親と子の発達支援プロジェクト

補助金額：300,000円

②御殿場フィルムコミッション

【審査用紙コメント】

- ・御殿場市を市外にアピールする事業で良いと思いました。
- ・市民が我が街を紹介することは理解する。事業のとりまとめ方法、マネジメント、今後の進め方に疑問が残る。→仕組みづくり？ 魅力発信課のマネジメントも重要。
- ・放送日等の告知が不十分では？
- ・ロケの街 御殿場 会員数の少なさ？ サポーターとして登録 ◎ロケ地として御殿場が出るとうれしい。
- ・今後の情報発信、この事業の PR をどのような形で進めて行くのか？
- ・単なるロケ事業者の下請けにならないように。費用徴収は？
- ・団体の実行力と継続性はどうか。
- ・ロケの街 御殿場の PR は重要。経済活性にも繋がるので頑張ってもらいたい。
- ・急増→どれくらい？ 2014 年=12 日 2016 年=82 日
- ・注目しています。駅前に黒沢ロードを作るとか、上映会とか。他の市民からいろいろなアイデアを耳にします。
- ・行政の補完的な事業だが、市民への盛り上がり期待。
- ・御殿場にもやっとこのような事業ができ、うれしく思います。

委員：私は市外から来ているので様子が分からないが、御殿場は映画の撮影地になっていたのか。

委員：去年は 46、一昨年は 24 と言っていた。

委員：グラフで出ていた。

委員：黒澤明さんが御殿場に別荘をもっていて、例えば二岡神社などを使っていた。非常に長く昔から御殿場は撮影地に使われているが、少し遅いぐらい。小山町はかなり前から広報していた。演習場もかなりいろんな所で使われている。

委員：ちょっと気になったのは、自分たち活動の独自性がどこまであるのか。それだけ魅力発信課の業務負担が軽減されると発表していた。NPO としてフィルムコミッションの形としての活動が、どういう風な方向にもっていくかが見えない。なんとなく心配。行政の下請けのような印象が強かった。

委員：(提案会では)「まるなげではないか？」という質問に対して、そういうわけではないと回答はされていた。組織づくりがメインのような感じ。

委員：非営利団体ということから NPO とつけたと言っていた。それもどうか。

会長：営利団体で十分いいと思う。

委員：営利団体が悪いということではない。なんとなく目的はよく分かるけど、方向性がちょっと不安。

委員：最初の仕組み作りをやりたいと言っていた。仕組みが出来たら、営利団体

として活動していくというやり方では。

委員：そうやって野心的だったら許せる、でも野心もなさそう。

委員：それを言ってしまうと何か言われるかと思ったのかもしれない。映画はすごくお金がかかる。映画をやっていた。ロケとかはすごい大変、スタッフをたくさん使うからできるだけ人手が欲しい。その仕組みを作るまでの第一段階として、今回の補助金を回してくださいということだと思う。

委員：それが明確に受け取れなかった。

委員：私はそれが受取れた。まず、スタートってとても大事。大変ですよ。自治体と一緒にやっていくっていうのが。やっていってもらいたい。

委員：聞いたらそう答えていた。仕組みづくりだと。

委員：HPを作るのはお金がかかる。人手を集めるのも、そのネットワークとして、メールの管理もやらなくてはならない。四人はすごい。仕組み作りとしては評価できると思う。

委員：フィルムコミッションは会場を見てから撮影に使うかどうか決める。ロケの注文は厄介。紹介であったようにあぜ道を探す、ヤギや畑や農家、かやぶき屋根の家など細かい。そういう漠然としたもので依頼が来て探さなければいけない。やっぱり大勢で探さないといけない。沼津はNPO 法人がフィルムコミッションをやっている。知っている人がたくさんいないと要望に応えられない。人を集めるということでは仕組み作りとしては非常にいい。団体の方かその先を言いにくいかもしれない

委員：その先が見えない。

委員：もう一つ言えるのは、熱海がフィルムコミッションをものすごく力を入れている。「AD さんいらっしゃい」というコピーで24時間やりますって広報したら、ブラック企業じゃないかって言われたという記事を見た。ちょっとみんなで分担をして御殿場のフィルムコミッションを盛り上げていくのは非常にいい取組みだと思う。

委員：小山は古くから活動している。(申請書の)最後のページ“今後のスケジュール”の欄には今後も続けていくという思いが書かれているので、初年度として今回の考え方はいいのでは。どうしても詰の甘さは出てきてしまうもの。

委員：好きな人がなんかやっているのかってイメージ。それでできるのであればそれはいいのかな。

委員：2番の今後のフィルムコミッション事業につきましては、初年度なので、2年後、3年後と今後の発展につながるような団体の組織やシステムづくりを頑張ってもらおう。

一同：了承。

(選考時間 約 9 分間)

📁 御殿場フィルムコミッション
補助金額：300,000円

③防災都市御殿場づくり体験の日

【審査用紙コメント】

- ・災害対策を市民に知っていただく絶好の事業だと思います。
- ・災害時の市、消防の動き等も市民に知ってもらえとなお良くなると思います。
- ・他行政、消防、警察等との連携は必要なのでは？もう少し行政の手が届きにくい防災問題点に着眼してみてはどうか？割とメディア等含め知って見たことがある情報が多いのでは？それらから始めることが大事なんですかね。
- ・災害を忘れない。具体的なプログラム。経験→地域の具体策。説明早い。噴火体験、水害、地域防災意識↑。東山地区限定感有。
- ・広く市民への周知の努力はどのような手法を考えているのか？
- ・事業を全市的に広めていく取組を。
- ・レジリエンスジャパンに参加して多くの自治体の取組を参考にしてみるのも良いと思う。
- ・どれくらいの範囲？対象？ プレゼンわかりやすい。
- ・YMCA が一昨年末までやっていたオープンハウスがなくなり、がっかりしています。こちらとコラボでできないでしょうか？
- ・市内の他の地域でも同様な取り組みが広がればと思う。
- ・他地区の模範となるよう期待します。

委員：内容としては素晴らしい。市民の方が親御さんと一緒に行かれることはすごいいい。やる事業は素晴らしいが、内輪的なものがある。市民の方が防災のことで体験する、東山荘でやるから行きましようって PR が非常に薄かった。御殿場市の防災全体を考えた時に、皆さんが審査項目①（団体の内容）を一番高く評価したことは防災という字を読むだけで防災が大切だという意識があるから点数が高いのかもしれない。ただ、日常生活している中で自分もそうだけど、こういう仕事に携わっていても、とにかく安心してしまう時がある。大きなことが起きないだろうとか。そういう意識を持つことが重要。やられていることは間違いではない。熊本の方を招いている内容なので行ってみる価値が高い。熊本のワークショップを三回開かれるということでいい内容だと思う。ただ、是非御殿場市のみなさんに行ってもらいたい、自分も行ってみてもったいないと感じた。もっと多くの御殿場のみなさんにアピールして行ってもらえるような内容になればいい。思考錯誤で変えていけるものは変えていきたいし、とにかく周知をしてい

きたいという内容だったので、その部分で大事な事業だと思っている。PRに色んな人の力を借りたいとは言うのだけど、実際どうやって人を集めるのだろう。それがHPを使うだけで集められるのか。色んなことをさっき（質問をして）付け加えたかった。どのようにして、市民の皆様に広めていくのか。内容自体はいい。

委員：事業内容はいいと思ったけど、まったく閉鎖的。例えば市民会館を全部貸し切って、商工会や市などの公共性のある建物を使ってやった方がいい。それをこんな形で、30万ぐらいの補助金でやろうと思うのは…。市民の方に大変なことだからもっとしっかり知っていただけるようにしてほしい。本当に85,000人とは言わないけど、そこまで周知させるには、市が動く。もっと貢献の大きなものが動く。やはり噴火であったり、いろいろな心配な部分はあると思う。そういうものをもっときちんとした形で周知をして行く必要性はあると思う。これだけで済ませてしまうのはもったいない。

委員：言い方は悪いかもしれないけど、東山荘さんのイベントのように感じる。

委員：最初の目的は、東山地区のお客さんを受け入れる。とりあえず東山地区からはじめたいのでは。

委員：申請書のP17の団体の説明によると、その地区の防災拠点になりますよって東山区、二の岡区に周知するために、防災の日のイベントを定めたと書かれている。ただ、それをやることによって、そういう類の施設でも実施してもらえるのかも。

委員：地域性が御殿場市内にあってこういう形を東山荘が発信していく。そこを適応されない地域もあると思うが、参考になる地域もあると思う。そこから色んな形で発信していくことが大事。

委員：そこをモデルとして自主防災の人たちに呼びかけていると思う。私も参加したけど。人数が少なくて残念だった。

委員：子どもたちはチラシを持ってきた。でも行かなかった。このチラシが字ばかりで魅力がない。確かに内輪っばい。YMCAでやるのであればオープンハウスでやってほしい、市民が集まるすごく楽しいイベントだから。今年はオープンハウスがなくて、こっちをやったようだ。

委員：整備が終わっていなかったからオープンハウスを開催できなかったと思う。

委員：今までみんなが、オープンハウスでけむりのハウスや災害のことをいつもやっていたから、お祭りの中でそういうことを体験ができるから参加していた。だけど今回は東山荘の色んな事業があったと思うが、つまらなそうだから子どもと行かなかった。行った人からすると、いいことをやっているけど閑散していると言っていた。もっと内輪感を消して、もっと分かり

やすいチラシにして、みんながウェルカムな、みんな気軽に行ける、遊び的な要素を取り入れてのイベントにしてほしい。

委員：時間がなかった気がする。東山荘がやるって聞いたのは直前になってから。なんでポスターとかないのって、連絡がまったくなかった。

会長：やるのは始めから東山荘だった。

委員：東山荘が主体でやるってイメージがなかった。宣伝すればあちこちにできたのに。突然出てきたようなイメージ。ペット防災の関係で保健所に確認をしたら、はっきり決まっていなかったと言っていた。一緒だったら、ペットを連れて参加をしていた。急に話が持ち上がった感じ。時間がなかった。

委員：時間がなかった。ようやくできあがったのがチラシだと思う。

委員：だから面白くないチラシになったと思う。でも、地域で限定をしているのはいいと思う。そこを見て、うちの地域もやった方がいいのかなと思えばいい。全部市内で一緒は難しい。そのまま突き進んでいっていい。この地区をモデルにするように。

委員：団体もかなり前回のことについて反省はしている。こちらとしてはもっと魅力的なチラシを作って、もっと市民が参加したくなるようなるべく多くの方が参加するようなイベントにしてもらいたい。

(選考時間 約 15 分間)

☞ 防災都市御殿場づくり体験の日
補助金額：300,000円

④富士山みくりやよってかつ祭

【審査用紙コメント】

- ・ イベントの実施でいろいろな市民団体が参加できて、地域活性化になると思う。
- ・ 富士山の魅力を市民に限定せず、県内外訪問者、“インバウンド訪問者に伝えていって頂きたい。参加者が限定されやすいと思うので、工夫して頂きたい。年配の方は難しいですかね…
- ・ 集客力が課題か？
- ・ 年齢に関係ない振付けは◎ どうやって多くの人に知らせるかが問題。よさこいとは一緒にしない方が良いな。
- ・ PR ビデオの完成度が低く、特に外部の方々が魅力を感じるかが疑問？
- ・ 一般参加者、見学者を増やす工夫を。
- ・ 他団体との差別化と独自性があるともっと良いと思います。
- ・ 内輪だけで盛り上がる危険性が否めない。洋舞の集いで参加団体を募ってみては？
- ・ 活力ある若い人の活動が期待できる。
- ・ 10 月開催 250 台駐車枠 金額として OK
- ・ 参加する団体だけでなく、来た一般の方がワイワイ盛り上がれると本当に素敵だと思います。よさこいってスゴイパワーなので。
- ・ 若者のやる気に期待します。
- ・ 誘客がイベント時のみで終らせないように。

委員：遊ぶ、楽しいことが少ない中で、やっていること自体はすごくいい。みんなで盛り上がれるいろんなグループが参加できる振付け。団体は御殿場市を盛り上げようという気持ちが強いのにそれを伝えきれないこと、自分達が盛り上がってしまっただけで他の人達のことを考えない、やっている人達が楽しければいいと捉えがちになってしまっている所が問題。周知や周りの理解を得る方法が課題。

委員：よってかつ祭はいろんなイベントに参加している。良いという声がある一方、早くもマンネリ化しているとの声もあり、よってかつ祭＝また「よさこい」と観客が思うと会場の温度が下がる。自分達は盛り上がって楽しいと思うが、見ている人達のことにも考えて。もう少しバラエティ豊かにし、見ていて楽しくなるようなアイディアを出し、団体がいろんなカラーを持った人が集まる場に移行していけば良いと思う。

委員：2年目の団体。1年目は補助金決定後すぐのイベント(7月)だった為広く声かけられなく結局いつもの団体になってしまった。次回はいろんな団体に声をかけてやりたいというのが去年の報告会での反省だった。今年は10月にやるので皆さんの言うようなことを取り入れ去年の反省を生かしてやってほしい。期待している。

委員：事業の名前が“よってかつ祭”になっているから、そういう団体しか参加できないのかなと思ってしまう。事業名も見直しても良いのでは。

委員：必要なもの(防災など)からやらざるを得ないので、今回の事業を順番付けると、申し訳ないがこの事業は半分遊びのようなものだから最後になる。どうしても一部の人達だけが楽しむのが否めない。御殿場市の観光面からみてもその時だけのイベントになってしまっている。土日2日間にしてよそから来る人に御殿場で1泊してもらい集客を増やすのなら違ってくる。

委員：泊まっていただくのも御殿場の課題の一つだが、御殿場で大勢泊ってもらうようなイベントをやるとなると、会場までお客さんを運ばなきゃいけない。駅からイベント会場までの足が無いのが御殿場の一番弱い所。この弱さをカバーするために、小規模なイベントをいくつもやり続けて「御殿場っていつでもいろんなことをやっている」という見せ方をする。お客さんがいる時間が短くても単価を上げる、回数を増やすことで効果が出る。市でやる・団体でもやる・皆でやる、とにかくやって御殿場に來ていただくことで協働していきたい。

委員：より多くの団体に参加してもらおう。

委員：クリスマスよさこいカーニバルや去年のよってかつ祭を見に行ったが、すごく内輪のりで居心地の悪い思いをした。団体は参加している220名のチームの方のことメインに考えているが、内輪のりじゃなくて見に行った人が面白く感じるイベントを。

委員：正直、みなさんも一緒に楽しみましょうではなく、自分たちが楽しんでいる。行かれた方も楽しめるようにしないと難しい。

委員：体操がお年寄りからみても分かりやすかったので、一緒に体操しましょうみたいに広がっていったら良い。

委員：昨年度の反省を踏まえてより多くの団体を集め、参加者だけではなく来場者(観客)も参加できるイベントにして下さいという形で、満額決定でよろしいか。

一同：了承。

(選考時間 約15分間)

☞ 富士山みくりやよってかつ祭

補助金額：300,000円

※「富士山みくりやよってかつ祭」の審査については、協議会委員に担当課職員がしているため、1名審査に加わらなかった。

⑤食育とキッズクッキング

【審査用紙コメント】

- ・料理だけでなく、レシピ作成や買い出しの部分も講座としてやると面白いと思う。
- ・現実として学校や家庭では“食育”に関する体験が不足がちである故、このような地道な活動は重要な時代になっているということですね。学校給食との連動等も考慮してみていますか？
- ・大切な事業。予算を増やして回数を増やせないか。学校との協力は得られないか？
- ・子供に食に関心を持ってもらう事は本当に大切。
- ・農政課、健康推進課等との連携も。
- ・ずっと続けて頂きたいです。
- ・子供の成長の為にも過保護になり過ぎない指導が必要だと思った。
- ・20名 5回/年 人・動き・狙いがわかりやすい。
- ・子供も本当にひどい状態ですが、ママさんたちもすごくかたよった情報にまどわされて食育を語るのが辛いです。ぜひ頑張ってもらいたいです。
- ・食品添加物など行政が取り上げにくいテーマなので良いと思う。
- ・参加者が毎年同じ人達で終わらせないように。
- ・過去の実績では事前打合せを綿密に行っている。

委員：プレゼンテーションがわかりやすかった。他団体と比べ 80 人は効果が高い。子供達も楽しく食育ができる良い活動だと思う。

委員：調理は参加人数が制限される中、年々回数を増やすなど一年一年が進歩した事業になっているので立派だと思う。

委員：子供達の親子さんに身近にある食べられない食物(ニラとスイセンの葉など)を教えることが大事ではないか。

委員：好き嫌いのある子、野菜嫌いな子が少しでも食べるようになれば良いと思う。

委員：補助金がなくなる来年、どんな活動をするのか気になった。できれば継続できるよう協働相手の家庭センターでも考えて欲しい。

委員：続けて欲しいと思った。補助金終了後、団体はどうしているの？

委員：最初から 3 年間で決めている団体もあるが、地域ねこ活動の会みたいに協働相手が予算をとって継続していくことが理想。3 年以降続けたい団体は、まず実績を作って軌道に乗せて継続させる。協働相手の行政と密に連絡を取って事業を進める。先を見据えて欲しい。

委員：初めての団体は、3 年計画の中で一年ごとの活動計画・3 年後どうするのか、2 年目 3 年目の団体は、去年の予算・活動計画・結果・反省点などの紙が一枚あると、見えてくる部分があり私たちも評価しやすい。

委員：申請書の資料 1-1 に収支決算はあるが、数字だけなので、そういう所の

添付があった方がわかりやすいかもしれない。次年度も見据えて行政と協働して下さいという形で、満額決定でよろしいか。

一同：了承。

(選考時間 約 11 分間)

👉 食育とキッズクッキング

補助金額：100,000円

⑥我が家流子育てをつくろう！～家族のコミュニケーション力向上事業～

【審査用紙コメント】

- ・御殿場市に住み続けたい支援活動は重要。御殿場にのみある支援を増大させるべき。この街の力を結集して、様々な問題をかかえる家庭を受け入れる。家族力向上、応援します。
- ・参加者以外への広報活動。
- ・コミュニケーションの大切さ、ふれあい。重要な事業。パンクだけで良いのか。我が家流がいい。来年度から継続できるのか？
- ・素晴らしい活動内容。どのようにパパ・ママ達に周知をしていくのか？特にパパ。
- ・父親学級の参加者増できる？
- ・親と子のコミュニケーションから家族へとつながる発展性が良い。
- ・本当にコミュニケーションが必要な家庭をどのように救済していくかが課題。
- ・団体活動が多方面に発展している。(事業効果がある)
- ・参加しない人こそ対象ではないか？→どうすれば巻き込めるか動いてほしい。もっと前から理解→呼びかけ⇒行政フォロー⇒情報発信いい効果？ 講師 9 万
- ・以前見学したとき、裾野市からの参加者も多かった。もったいないので当市からの参加者も増やせると良い。家庭センターにがんばってほしい。
- ・地道な息の長い活動が根をはりつつありますね。パパさん対象、頑張ってください。
- ・子供達の元気な笑顔の力になって下さい。

委員：パンフレットで周知をしていくということだったが、それだけで大丈夫か。大事な事業なので、幅広く周知できる方法ないか。

委員：3年目になり、事業の完成度も高く、続けていってもらいたいが、事業の宣伝を現在は広告費に頼っている状態。補助金がなくなると事業の継続が難しくなっていくのではないかと。限られた予算の中で、例えばSNSやHP等に広告方法をシフトしていくなどして、事業の継続をお願いしたい。

委員：補助金助成前でも、団体は様々な事業を行っており、補助金が入ることによって、さらに事業がスケールアップしてきた。今後の活動についても、活動が充実していくのではないかと期待している。

委員：やはりお金がかかるところはかかる。団体に任せきりになるのではなく、市で予算を計上するなどして、これからも市と協働して続けていくべき大事な事業である。次年度も事業を継続できるように、協働相手先の子ども家庭センターの方でも、検討してもらいたい。

(選考時間 約7分間)

☞ 我が家流子育てをつくろう！～家族のコミュニケーション力向上事業～
補助金額：300,000円

⑦富士山の自然環境保護

～御殿場口の外来植物及び侵入植物の駆除活動と固有種確認調査事業～

【審査用紙コメント】

- ・環境課との更なる協働が必要。御殿場、富士山を熟知している専門性の高い研究(先生)家とも協働し、市民に活動内容、詳細報告をもっとすべき。重要な事業と考えますので。
- ・世界遺産の富士山を守るための活動。継続の必要性有。森林限界の調査←難しそうだが、他の地域との連携は？
- ・独自で多面的に富士山の自然環境について調査する事業は必要。
- ・事業結果を行政(環境課)はどう活用する？
- ・大切な事業だし、大変だと思います。
- ・ニッチな事業だが富士山の環境保護の重要性は理解できた。
- ・数字で取り組む⇒他団体との連携は？(他、国)
誰が対象？何をする？何部？25万冊子⇒30万円
- ・地道なご努力、感動しました。
- ・成果がより多くの人に伝わるようにお願いしたい。

委員：会社でよく富士山清掃活動を行っていたが、地道な活動だと思うので、継続してやっていくことは大変なことだと思う。

委員：最終年度になるが、冊子の作成が主な事業内容になっているので残念に感じる。コメントにもあったが、せっかくここまで研究されているので、発表会等を行って成果がより多くの人に伝わるようにしてほしい。

委員：補助金30万円のうち25万円が冊子作成代として計上されているが、そもそも冊子自体をどういう目的で作成するのかと、25万円が予算として十分なのかどうか分からず審査が難しかった。

委員：「予算の範囲内で最大部数を作成」とあるが、あまりにもおおまかすぎる。

委員：ウェブで掲載したらどうか。

委員：誰にでもわかるように幅広く情報発信するのか、それとも指導者等特定の方のみに知ってもらいたいのか、作成の相手先を作成者の意図によって情報発信方法は違ってくると思う。

委員：ごく一部冊子にするのも必要であると思うし、SNS的なもので、例えば御殿場市のHPのバナーなどで、そこから入ると誰でも見られるようにするのも配慮の一つであると思う。

委員：ホシガラスの会のHPもあるので、そこに掲載することは可能であると考える。

委員：それでは、冊子を作成するのはよいが、冊子を作成後、冊子作成費の25万円の予算の中で、是非その発表会を実施してほしい、また作成業者決定の際に相見積もりを行い、なるべく多くの冊数の作成をお願いしたい、ということでしょうか。

委員：了承。

(選考時間 約20分間)

📖 富士山の自然環境保護

(御殿場口の外来植物及び侵入植物の駆除活動と固有種確認調査事業)

補助金額：300,000円

※「富士山の森を守るホシガラスの会」の審査については、協議会委員に担当課職員と会員が加入しているため、2名審査に加わらなかった。

〈はじめの一步部門〉※書類のみの審査

旧石田家を活用した地域振興と文化財保全

【審査用紙コメント】

- ・判断するにはなんとも言い難い。文化、地域振興に於いては中長期的に鑑みても(観光・経済面も同様に)重要と考える。御殿場市内にもっと多くあって良い。
- ・文化財を保全しつつ有効利用(観光など)していく事の模範になるのでは。
- ・多くのイベントを実施できる体制を作してほしい。
- ・旧石田家以外の古民家活用も気になる。
- ・文化財としての活用を楽しみにしております。

委員：はじめの一步なのでぜひこういう事業はみんなで盛り上げていきたい。

委員：少し前まではこういった古民家はよくあったが、保存が大変で最近減ってきている。残っているものを大事に利用していく必要がある。

委員：実際にどのような事業を行うのか詳しく書かれていない気がする。

委員：申請書ではわかりづらいが、旧石田家は市の指定の文化財になっている。協働先は社会教育課・農政課となっているが、管理は農政課。社会教育課は去年、今年に市の文化財として持っている吊るし雛の展示の手伝いを行っている。普段は閑散としている状況なので、こういった地元の文化財は地元で守り育てようということを事業としてやっていただければよいと思う。

委員：収入としてイベント参加者負担金が2万円入って支出で体験プログラム参加費としてそのまま2万円出ていく。これを予算書に記載する必要があるか。

委員：イベントの傷害保険は補助金対象の中の5万円の中に含まれているため、イベントとはなんなのかというところで予算書に計上したのでは。

委員：団体によって予算書の書き方が違うため、わかりづらいところがある。今後の補助金検討委員会において予算書の作成方法についても検討していく必要がある。はじめの一步事業として承認はするが、体験プログラムの具体的な内容を予定でも構わないので報告してほしい。

(選考時間 約9分間)

👉 旧石田家を活用した地域振興と文化財保全
補助金額：50,000円

※「富士山の森を守るホシガラスの会」の審査については、協議会委員に担当課職員と会員がいるため、2名審査に加わらなかった。